

2022年度 研究、教育、社会・学会活動報告書

1. 研究（本年度のみ）

ふりがな	かとう やすし		職 位	教授	学 位	修士（商学）
教員氏名	加藤 康					
アルファベット表記	Yasushi Kato					
専門分野		産業論・企業論				
研究課題	テーマ	サプライチェーンにおける倉庫の機能				
	概要	サプライチェーン、ロジスティクスに組み込まれた倉庫の意義、機能に関する実証的研究				
本年度 研究業績	研究費	総額： 630,000 円 内訳：個人研究費 180,000 円 / 科学研究費 450,000 円 そ の 他				
	研究テーマ	サプライチェーンにおける倉庫の機能				
	経過と到達点	今年度は、ガラス産業での共同調査、サプライチェーンに関する文献の書評担当、タイミングコントローラーに関する概念整理等を通して、研究の進展に向けた準備を進めることができた。				

(1) 学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
①英文査読論文					
②和文査読論文					
③英文論文					
④和文論文					
⑤紀要論文					
⑥紀要研究ノート等					

7 学会での 口頭発表、討 論者(ディス カッサント	討論者：關智一「日 本・製造業のアジ ア伸長と本社生産 性」	2022 年	単	アジア経営学会第 29 回全国大会（於 近畿大学）	關智一氏による日本企業の本 社生産性が国内外子会社に与 える影響についての重回帰分 析及び共分散構造分析に対し て、報告の具体的示唆を問う等 討論者としてコメント等を行 った。
	サプライチェーン の動向	2023 年 3 月 9 日	単	京都経済短期大学 経営情報学会	半導体不足等昨今の環境下 における在庫の意義とサプライ チェーンの動向について検討 を試みる。
	書評：李端雪編『業 界別物流管理と SCM の実践』ミネ ルヴァ書房、2022 年 5 月	2023 年 3 月 10 日	単	同志社大学人文科 学研究所第 16 研究 部門研究会	大学の物流・サプライチェーン 実践知講座向けの書籍につい て「タイミング・コントローラ ー研究」の立場からコメント等 を行う。

(2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
⑧共著書・ 共訳書	「サプライチェーン と SGDs」京都経済短 期大学経営情報学会 編『持続可能な社会に 向けて』	2023 年 3 月	晃洋書房	倉庫を軸とするロジスティクス研 究をタイミングコントローラ ー研究との関連において検討し、時間と コストを節約するサプライチェー ンのあり方についての一つの視 角を提示した。
⑨単著書・ 単訳書				

(3) 外部研究資金獲得（競争的資金獲得）

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩共同研究 (研究代表)				
⑪単独研究				

⑫共同研究 (分担研究)	タイミングコントローラーと競争優位：規模の経済とJIT生産の両立に関する研究(中道一心)	2020年4月～2025年3月	文科省科研費基盤研究(C)	サプライチェーン全体の最適化に不可欠な企業(タイミング・コントローラー)の検討、国際比較、その理論構築を目指す。
⑬科学研究助成事業(日本学術振興会)申請				

2. 教育(本年度のみ)

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
担当科目	講義	経営学総論、中小企業論、	企業論、流通論、経営英書購読Ⅰ
	演習	基礎ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、経営講読Ⅱ	ゼミナールⅢ
	実習		
教育内容・方法の工夫	<p>◆ 講義科目</p> <p>1 回生前期配当「経営学総論」では、これまで同様、経営学の基礎知識を解説すると共に企業の実際に触れることを意識した。「企業論」では、前年度までと同様、経営分野の基礎的理解とともに、サプライチェーンに関連する論理と多様な実際のありようを紹介することに重点をおいた。本科目と「中小企業論」「流通論」は、前年度オンライン講義であったが今年度は対面講義となり、CEASのアンケート機能を用いて、zoomのチャット機能と同様に毎回受講生にコメントの提出を求め、次の講義でコメント提出についての紹介を着実に行った。流通論では自身の研究調査をもとにガラス産業における生産及び流通プロセス、自身のメルカリでの販売経験等多様な話題を含めて講義を展開した。2 回生前期配当「経営購読Ⅱ」においては毎回テーマを提示し、経営学分野の基礎的なトピックに関する小論文作成の個別指導を行った。</p>		

	<p>◆ 演習科目</p> <p>2021 年度生は、コロナ過のもとでゼミ全体での現場見学こそ実施できなかったが、3年ぶりにゼミ合宿（滋賀県高島市）を行うことができた。さらに、今年度も5つのグループに分かれて企業へのヒアリング調査を行った。それぞれ前年度3月からの調査先をみると、A班：ゆば長(株)（3/24 オンライン）、株式会社ゆば庄（9/8 対面）、B班：(株)ロマンライフ（3/25 オンライン）、株式会社相互（9/12 対面）、株式会社美十（11/11）、C班：(株)よーじや（3/30 オンライン）、株式会社発酵食堂カモシカ（6/28 対面）、株式会社西京味噌（10/24）、D班：東寺（3/22 対面）、友田神具店（伏見稻荷大社内）（8/3 対面）、E班：モモタ農園（2/24 対面）、京都中央市場卸青果卸売協同組合（7/2 対面）と多数に渡る。今年度もこうした調査をふまえて卒業研究（共通テーマ：京都企業のサプライチェーン）に取り組み、ゼミナール研究発表会前日にゼミ内研究発表会（YouTube で限定公開）を行った。ゼミ内5班の成果を今年度もゼミ論集として製本する。</p>
	<p>実習科目</p>
	<p>◆ その他（教科書・教材等の作成を含む。）</p>

(1) 課外活動

①研修旅行 海外	
②研修旅行 国内	ゼミ合宿（於滋賀県高島市：2022年12月1日～12月2日）

3. 社会・学会活動（本年度のみ）

（1）公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①委員長・座長 国・国際機関	
②委員長・座長 上記以外	
③委員・アドバイザー 国・国際機関	
④委員・アドバイザー 上記以外	

（2）学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分 類	活動・講演の概要
⑤理事長・会長	
⑥理事	

（3）講演会

分 類	活動・講演の概要
⑦講演者・登壇者	

4. 特記事項（本年度のみ）

--